

診療における
「生成AI」活用の最前線

contents

- ・動画と対話で届ける、安心の入院支援
- ・地域連携研修会の報告

CHECK

山梨県立中央病院
患者支援センター
入院支援科

雨宮 和子

動画と対話で届ける、
安心の入院支援

山梨県立中央病院・入院支援科では、患者さんが安心して入院を迎えられるよう、入院前の説明体制を見直し、動画を用いたパス説明を導入し始めています。これまで入院前の説明は、看護師が一人ずつ口頭で行っており、担当者によって説明内容や深さに差が生じることが課題でした。また、限られた時間の中で説明・質問対応・アセスメントを行うため、患者さんの思いや不安を十分に聴くことが難しい場面もありました。

こうした現状を改善するため、当科では説明内容の「標準化」と「質向上」を目指して動画導入を進めました。動画を活用することで、どの患者さんにも均一で分かりやすい説明を提供でき、説明のばらつきが解消されました。また、動画視聴により基本的な情報提供を行うことで、看護師は患者さん一人ひとりに向き合う時間をより確保できるようになりました。看護師が「思いを聴く」「生活背景を理解する」「退院を見据えた支援につなげる」など、より専門性の高い対話に集中できるようになったことは大きな効果です。

一方で、「人から直接説明を受けたい」という声も根強くあります。そこで当科では、動画視聴後のフォローを必ず行い、理解度の確認や疑問点への対応を丁寧に行っています。アンケートでは、「自宅でも繰り返し視聴できる」といい「家族と一緒に確認できる」「説明が整理されていて分かりやすい」など、患者さんから好意的な評価をいただいています。パスの理解度は従来の口頭説明と変わらず、むしろ視覚的で覚えやすいという声もあります。

今後も入院支援科では、動画を用いた説明の標準化と、看護師による個別支援を両立させながら、患者さんの意思決定を尊重した支援体制の構築を進めていきます。地域の医療機関と連携し、患者さん、ご家族が安心して治療へ臨めるよう、多職種が協力して質の高い入院支援の提供に努めていきます。



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

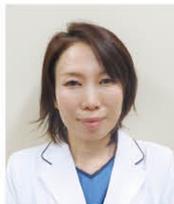
患者支援センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1

TEL.(直通)055-253-9000/FAX.(直通)055-251-7733

診療における「生成AI」活用の最前線

～患者満足度の向上と医療安全・業務効率化の同時実現を目指して～



山梨県立中央病院
婦人科部長

坂本 育子

平素より厚く御礼申し上げます。

昨今、医療業界においても「AI（人工知能）」の活用が叫ばれて久しいですが、当院では実臨床における「患者サービスの質的向上」と「高度な医療安全管理」を両立させるために、他職種で構成されるチーム（SAT team）を中心に、生成AIの導入を積極的に進めております。

本稿では、SAT teamの一員として、また婦人科医として当院で現在運用しているAIシステムと、それによってもたらされた診療の変化、患者様に還元できるメリットについて、最新のデータと共にご報告させていただきます。

1

「AIナース」によるインフォームド・コンセントの革新

～待ち時間を「診療」に変え、理解度と満足度を最大化する～

当院では、患者様への手術説明や術前オリエンテーションにおいて、生成AI動画技術を用いた「AIナース」を導入・運用しています。これまで、手術や検査に関する説明は、医師や看護師がパンフレットを用いて対面で行ってまいりました。しかし、限られた診察時間の中では、情報の網羅性と患者様の理解度確認に限界があり、また担当者によって説明のニュアンスに微差が生じるという課題がありました。

そこで当院では、動画生成AIを活用し、医師の監修のもと、視覚的に分かりやすく標準化された説明動画を作成し、これを外来の待ち時間や入院前の空き時間にタブレット等で視聴していただくシステムを構築しました。**図1**

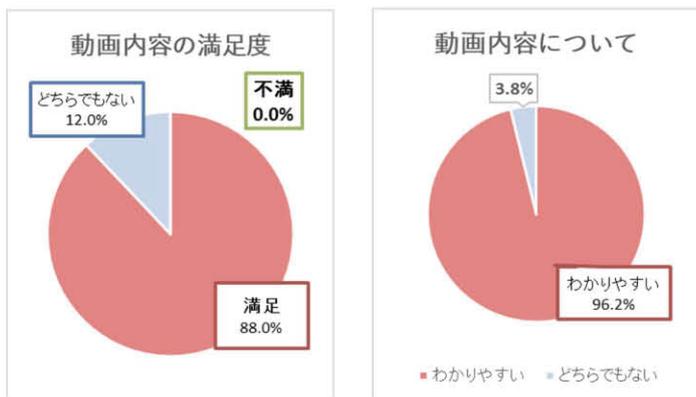
術前外来で実施した調査では、動画導入により医師・看護師の直接説明時間が平均で約10分短縮されました。これは単なる時短ではなく、創出された時間を「患者様の個別の不安に対する質疑応答」や「より深い診療方針の相談」に充てることを可能にしました。



図1 生成AIを活用した説明動画

特筆すべきは患者様の反応です。動画視聴後のアンケートでは、96.2%の患者様が「わかりやすい」と回答し、88.0%が内容に「満足」されています。動画というフォーマットは、高齢の患者様にとっても「何度でも見返せる」「家族と一緒に確認できる」という安心感につながっており、インフォームド・コンセントの質を飛躍的に向上させています。**グラフ**

アンケート結果



中央手術室看護師 塩田智恵・熊倉幸子作成

グラフ 動画視聴後のアンケート結果

2

予測AIと「症例検討GPTs」による
高度な医療安全と標準化

～ロボット手術の難易度予測とエビデンスに基づく意思決定～

当科が得意とするロボット支援下手術においても、AIは強力なパートナーとなっています。新たに開発したWebアプリケーションでは、年齢、BMI、推定子宮重量、癒着の予想、術者経験などを入力すると、AIが手術難易度をスコア化して提示します。これにより術前カンファレンスでの客観的なリスク評価が可能となり、手術チーム全体で準備すべき事項を共有できるようになりました。「予期せぬ困難」を減らすことは、そのまま患者様の安全性に直結します。【図2】

一方、医師向けには「症例検討GPTs」を試験運用しています。症例の要点と疑問点を入力すると、関連ガイドラインや代表的な論文を自動で抽出・要約し、エビデンスレベルも整理して提示します。これにより、各医師が個別に検索していた時間を短縮するとともに、カンファレンスで共有する情報の質をそろえることができました。これは若手教育ツールとしても機能しており、科全体の診療レベルの底上げにも寄与しております。

【図2】 ロボット手術難易度予測システム (Webアプリ)

3

情報セキュリティ管理体制

～「利便性」よりも「患者プライバシー」を最優先に～

「AIにカルテ情報を読ませて大丈夫なのか？」というご懸念を持たれる先生もいらっしゃるかと存じます。医療現場でのAI活用において最も重要なのは、患者情報の適切な管理です。当院では厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版」および個人情報保護法に準拠し、動画やAIツールに取り込む情報は、原則として氏名やIDなどの直接識別子を含まない形に加工し、必要に応じて仮名化・匿名化を行っています。また、職員向けの勉強会を定期的に開催し、「どこまでがOKで、どこからがNGか」を現場レベルで共有するよう努めています。

終わりに 地域医療連携におけるAI活用の展望

これらの取り組みは、院内のSAT teamと多職種で議論しながら進めてきたものです。患者説明動画や術前外来の効率化はすでに一定の成果が得られており、今後は説明動画の対象疾患の拡充や、学会発表・抄録作成を支援するGPTsの導入も検討しています。なお、生成AIはいかなる場合も医師の判断を代替するものではなく、標準的な情報提供と事前整理を支える「道具」と位置づけています。最終的な診断・治療方針は、これまでどおり主治医と患者さんの対話を通じて決定いたします。

当院のこうした生成AIの活用状況を共有し、紹介患者さんの情報提供や逆紹介後のフォローに役立てていただければと考えております。

「高度な医療技術」と「温かい患者対応」、そして「安心できる情報管理」。これらをAIの力で融合させ、地域の先生方と患者様に選ばれる病院であり続けるよう、今後も精進してまいります。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

9.26 FRI

地域連携
研修会

1. 「緩和ケア領域における最近の鎮痛薬の動向」

山梨県立中央病院 緩和ケアセンター
統括部長 阿部 文明 医師



2. 「緩和ケア病棟への入院について」

山梨県立中央病院 緩和ケアセンター
宮久保 朱実 主任看護師長

地域連携研修会が 開催されました

阿部医師からは、医療用麻薬（オピオイド）を中心にオピオイドの具体的な処方例やレスキューの使用法、副作用対策など実践的な内容で講演しました。宮久保看護師からは、当院の緩和ケア病棟への入院の対象となる患者様の状況、状態等について講演しました。

10.24 FRI

「保護者の不安に寄り添う連携

～地域医療が共に拓く、赤ちゃんの頭のかたち外来～

山梨県立中央病院 形成外科 梅澤 和也 医師



赤ちゃんの頭の形に関する保護者の関心・不安が高まっており、2025年1月に県内初となる頭位性斜頭・短頭症にヘルメット治療を提供する「赤ちゃんの頭のかたち外来」を開設しました。現在では、毎月2～3名の赤ちゃんが新規にヘルメット治療を開始しています。頭のかたちを治すのには除圧が大事になること、中等症以上の頭の変形は保存療法では治りにくいこと、ヘルメット治療は必須ではないが確実な除圧効果が期待できること等が話されました。赤ちゃんの頭のかたちが心配な方は、まずは、こどもの形成外科外来に相談をしてほしいです。

11.20 THU

「肥満症に対する減量・代謝改善新規薬物療法の導入」

「肥満症に対する減量・代謝改善手術の導入」

山梨県立中央病院 糖尿病内分泌内科部長 柁津 昌広 医師
山梨県立中央病院 胃・食道外科部長 大森 隼人 医師



肥満症は、特に男性で増加傾向にあり様々な疾患の原因となります。薬物のGLP-1導入によりよりよい効果が期待できるようになりました。当院では、薬物療法・代謝手術双方が可能です。手術療法では内科療法と比較して、高い減量効果、生活習慣の寛解率を認めます。肥満症でお困りの患者様がいましたら、ぜひ当院にご相談いただき、適切に対応できるよう努めてまいります。

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、かかりつけ医によるFAX予約ができます。 FAX. 055-253-2903

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状（診療情報提供書）を持って受診してください。紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

電話予約の流れ

1 かかりつけの 医院を受診

紹介状をもらってください

2 専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎055-253-7900

9:00～17:00 月～金(祝祭日除く)

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に
準備して
ください

3 受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③保険証 ④当院の診察券
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)

MRI検査(放射線診断科)の予約について

下記をご確認の上、ご予約をお願いいたします。

体内金属の有無についてご確認いただき、診療情報提供書に記載をお願いいたします。

「MRI対応ペースメーカー」が留置されている患者様は、適応判断のため検査前に当院ペースメーカー外来(循環器内科)の受診が必要になります。



詳細は当院ホームページ(QRコード)をご確認ください。

当連携だよりは、再生可能電力(CO2排出排出ゼロ電力)で印刷されています。

